ヒメビシ　*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形　態】

1 年生の浮葉性水草。茎は地中から長く伸びて水面に達し、節から羽状に分裂した根状の沈水葉を出す。浮水葉は茎の先端に放射状に叢生し、葉柄は長さ 0.5～5cm、中央部は長楕円状にふくらみ、浮きぶくろとなり、葉身は広卵状ひし形、幅 1～2cm、上部の辺縁はあらい欠刻状の鋸歯となり、裏面の脈上にはまばらに毛がある。花期は 7～10 月、花は葉腋から出た柄の先に 1 個ずつつき、淡紅色、直径 6～8mm、果実は石果で倒 3 角形、幅約 20mm、4 個の刺がある。

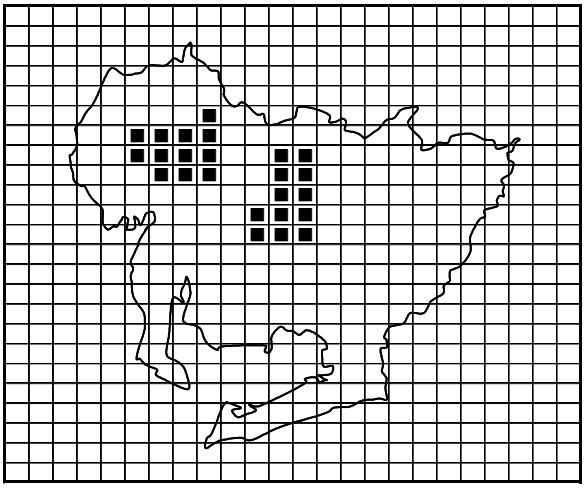
【分布の概要】

【県内の分布】
西：24 豊田東部（芹沢 83822, 2008-11-5）。尾：50 名古屋北部（芹沢 89707, 2014-9-29, 発見は中村 肇氏）。

【国内の分布】
本州、四国、九州。

【世界の分布】
日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部や丘陵地の池沼に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地				
水 域		○		

【現在の生育状況／減少の要因】

豊田東部は 3 カ所のため池で確認されている。ヒシ属は水草の中では比較的汚染に耐性があるが、本種だけは汚染に弱いらしく、全国的に減少傾向が著しい。名古屋北部では僅かな個体が見られるだけで、おそらく近年復活した集団と思われる。愛知県においてもかつては点在していたと思われるが、標本は残されていない。過去の記録はコオニビシと混同している可能性があり、再検討が必要である。

【保全上の留意点】

生育地のため池の改修を避け、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

ヒシ *T. japonica* Flerov.とされている植物の中にも、葉形が本種に似たものがある。日本産のヒシ属については、分類学的な再検討が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅱp.45, 平草本Ⅱp.262, 平新版 3 p.261, 環境省 p.455.
角野康郎,1994. 日本水草図鑑 p.129. 文一総合出版, 東京.